

# 動労本部が38回全国大会を 方針(案)を批判する

動労「本部」革マル反動分子が作成した「第三八回全国大会方針案」批判の最後に、われわれは、「労働戦「統一」問題」、「反戦・反核闘争」に関する項目について焦点をあてて、その欺瞞性を暴露し断罪する。

## 「働こう運動」で総評内最右翼 になり下った動労「本部」

すでに明らかのように、動労「本部」革マル反動分子は、この間一貫して、右翼労働「統一」の綱領ともいべき『基本構想』に反対することに反対してきた。そして、口先では様々な表現でゴマカシながら、しかし実際の行動はことごとく全てにわたって総評横枝・富塚執行部の親衛隊として総評を「丸ごと」右翼労働「統一」に引きつりこむための最悪の先兵。最も忠実な行動部隊としてふるまってきたのである。例えば、

①集會主催者が「基本構想」反対のスローガンを引き下し、「全的統一」の名による「総評丸がcaeの右翼的統一」へとなだれこむ方針とスローガンをかけた昨年十月二〇中央集會において、当然にもこれに抗議し「基本構想反対、右翼的統一反対」の立場の明確化を要求して指導部にせまった労働者部分に対して、動労「本部」青年部革マル分子を中心とした動労部隊が暴力的に襲いかかり「排除」をかって出た。(しかし、会場の全参加者から、この右翼的な実力行使は激しく弾劾され、逆に動労「本部」革マル部隊の方が会場外に追い出されてしまった。)

②さらに、十一月四日、右翼労働「統一」への一括参加をとりつけるために召集された総評臨時大会において、これを「日本労働運動の今後の帰すを決する重要な大会を成功させよう」「『左』右からの大会破壊策動を粉碎せよ」と称して、またもや「大会防衛隊」を自らかつて出て、会場の内外で右翼労働統一反対の声を必死になんて弾圧してまわったことは、周知の事実である。

③右翼労働統一への流れに危機意識を感じ総評内の左派的な単産の力を結集して右翼的統一に反対せんとそれなりに奮闘している総評三顧問(市川、岩井、太田三氏)に代表される動向に対

して、動労「本部」革マル反動分子は、最初のうちは表向きは参加(実際は中で妨害)してきていたが(昨年十月十九日の八鐵委員長も参加し発言している全電通会館での集會)、いよいよ事態がはっきりしてきた今日ではついにベテンのベールもぬぎすて「あんなのは三老人のタワゴトにすぎない」「時代錯誤の分裂主義者」と横枝・富塚路線の側に立って口汚くののしている革マル派の路線にピタリとのっとなって公然とポイコット・妨害を開始していることである。三顧問が呼びかけた本年六月二十四日の「労働戦線の右翼再編に反対し、闘う総評の再生をめざす六・二四大集會」(東京・千代田公会堂に千二百名の闘う単産・単組の労働者が結集した)に対して、動労「本部」は集會参加を拒否した。(そのため今日、総評内左派系単産から「今まで最左派だと思っていた動労には裏切られた。今の動労は富塚執行部の親衛隊だ。口では色々ごまかすけどやっている事は最右派じゃないか。」との批判と不信をかっていのである。)

そして今日、彼らは動労をどのような方針のもとに引っ張っていかうとしているのか?

## 動労を右翼労働統一の先兵に仕立てる反動的「方針案」を許すな!

「方針案」は、「運動の基調」と「具体策」の項において「労働統一について」として次のように述べている。すなわち、  
「①総評五項目補強見解の堅持と全的統一をめざす。」

②統一労働組懇の「左」からの総評分裂策動を粉碎し、総評の団結を守る。

③右翼再編に対し批判的な多くの単産との連携を含め、学習会などを通して、具体的に進めます。……」

これこそ実に見えすいたベテンである。(以下続く)

三里塚・ジェット闘争貫徹「国鉄35万人体制」粉碎!

# 動労を引ずり込む「方針案」を許すな!